

若草園は現在、広島県立障害者リハビリテーションセンターの中の1つの入院施設ですが、本施設の前身は昭和28年（1953年）に広島市尾長町に開設された肢体不自由児施設「広島県立若草園」です。これは、戦後、東京大学整形外科教授であつた高木憲次先生が障害児の療育という理念で設立された東京整肢療護園（昭和17年、1942年）から全国に広がつた施設の一つであります。高木先生は大正時代にドイツの肢体不自由児施設であるクリュッペルハイムを見学して本邦における同様の施

若草園は現在、広島県立障害者リハビリテーションセンターの中の1つの入院施設ですが、本施設の前身は昭和28年（1953年）に広島市尾長町に開設された肢体不自由児施設「広島県立若草園」です。これは、戦後、東京大学整形外科教授であつた高木憲次先生が障害児の療育という理念で設立された東京整肢療護園（昭和17年、1942年）から全国に広がつた施設の一つであります。高木先生は大正時代にドイツの肢体不自由児施設であるクリュッペルハイムを見学して本邦における同様の施



広島県立障害者リハビリテーションセンター
所長 安 永 裕 司

療 育

置されたのは、昭和38年（1963年）でした。

若草園は昭和40年に現在の西条町田口に移転後、昭和53年に一般医療を行なう病棟を合わせ持つた

広島県立障害者リハビリテーションセンターが開設され、その後も歴代所長、特に片山昭太郎先生ならびに黒瀬靖郎先生の尽力によつて病床は増加し、現在にいたつておりますが、若草園はリハビリテーションセンター存在そのもののバックボーンと言つても過言ではないと考えています。

たとえ肢体に不自由なところあるも、次の社会生活中つて我が将来を決しなければならない児童達には、くもりのない魂と希望をもたらす、その実りをも奮闘する所存ですので、ご意見がございましたら、遠慮なくお知らせ下さい。

 第74号 平成28年12月発行 発行 広島県立障害者 リハビリテーションセンター 若草園 東広島市西条町田口295-3 TEL (082) 425-1455 印刷所 ワークホーム聖恵 竹原市忠海中町三丁目16番1号 TEL (0846) 26-1002
--

びに重複化し、さらに現代の社会的環境から生じる障害も出現しているところで、医療、看護、リハビリテーション、地域連携などすべての領域で若草園スタッフの苦悩も察しますが、「療育」の基本的理念は変わることではなく、入園児の療育に努力していただきたいと思います。

スタッフの皆さんが、広島県唯なわち障害児に対する社会医学的な視点や教育から社会参加に至る基本的な考え方を示されました。

高木憲次先生の尽力により、昭和22年（1947年）に制定された児童福祉法の第43条に「肢体不自由児施設は上肢、下肢または体幹の不自由な児童を治療するとともに、独立自活に必要な知識技術を与えることを目的とする施設とする」と記載され、肢体不自由児施設が法的、制度的に正式に位置づけられました。そして全国の都道府県全てに肢体不自由児施設設

おりましたが、若草園はリハビリテーションセンター存在そのもののバックボーンと言つても過去に比べると入園児の障害は、重症化なら



たとえ肢体に不自由なところあるも、次の社会生活中つて我が将来を決しなければならない児童達には、くもりのない魂と希望をもたらす、その実りをも奮闘する所存ですので、ご意見がございましたら、遠慮なくお知らせ下さい。

たとえ肢体に不自由なところあるも、次の社会生活中つて我が将来を決しなければならない児童達には、くもりのない魂と希望をもたらす、その実りをも奮闘する所存ですので、ご意見がございましたら、遠慮なくお知らせ下さい。

たとえ肢体に不自由なところあるも、次の社会生活中つて我が将来を決しなければならない児童達には、くもりのない魂と希望をもたらす、その実りをも奮闘する所存ですので、ご意見がございましたら、遠慮なくお知らせ下さい。

高木憲次

（碑文 全文）

小児訓練科の紹介

小児訓練科 柴田邦宏

今年度小児訓練科では6名の新人職員を迎え、総勢24名（産休・育休含む）体制となりました。思い起こせば現在の訓練棟ができた平成4年の頃は、現在の体制とは異なり、母子入園、小児訓練、若草療育園、通園にそれぞれ担当が分かれ10名体制で訓練業務を行っていました。

当時は、理学療法士・作業療法士とも明確な役割分担をしておらず、作業療法士が術後訓練を行っていたり、理学療法士が自助具の作成を起こなつたりしていました。

現在小児訓練科は理学療法士10名、作業療法士9名、言語聴覚士5名が配属されており、二十数年前と比べると倍以上の配置人数となっています。対象者も変化しており、これまでの肢体不自由を中心とした子ども達だけでなく、発達障害のお子さんや、二次障害による症状に苦しむ成人脳性麻痺の方も対象となっています。対象者の変化やアプローチ

の多様化に伴つて、それぞれの職種が専門的に関わる様になりました。特に作業療法士においては、子ども達の認知面の評価や訓練においては、生活や学校場面において子ども達の認知機能に合わせた関わりが大きくなっています。また言語聴覚士が配属されたことで、摂食機能やコミュニケーション機能の評価や訓練が充実しつつあります。

時代の流れや学問の進歩に伴い、障害のとらえ方や発達の考え方、治療技術について、一昔前と比べると大きく変わってきています。一方、障害当事者が抱える問題については時代が変われどもあまり変わっていないはずです。

訓練業務の専門分化が行われてきていますが、皆さんとの連携を大切にし、当事者が抱える問題について広い目長く捉え、適切な支援ができるようにしていきたいと思います。

10月26日に保護者会主催の施設見学がありました。その時の感想を紹介します。

若草療育園保護者 児玉真美

子鹿医療療育センターは三次市を一望する丘の上にありました。外で相談員と育成課長さんお2人の案内でセンター内を見学。老いていく親としては、3つ用意された「宿泊室」（1室はキッズ付き）とフロアごと2室の「面会室」、衣替え後の衣服を保管しておくスペースなどに目を引かれます。「いいね」「ほしいね」という声がしきりでした。

見学の後は、子鹿の保護者の方々とお昼ごはんをいただきながら交流。センター事務局と保護者会と重症心身障害児（者）を守る会とが一体となって活動しているという保護者会会長のお話や、守る会副会長の同会の歴史や中央情勢のお話を聞きし、勉強になりました。お世話になつた方々、ありがとうございました。

若草療育園保護者 奥京子

施設を見学しての第一印象は「広い」「きれい」「明るい」でした。はじめにセンター長さん、相談員さんの施設説明があり、新築に伴い保護者から①宿泊室をできれば五部屋に、②各フロアに面会室を③居室はできるだけオープンにして一部屋に大人数をという要望があつたとのことでした。色々な制約の中で宿泊室は三部屋に、居室は最大四人部屋になりました。

この他にも、フロアごとの入所者個々の実態に合わせた浴室やトイレの工夫、特にトイレは利用者が使いやすいように一つずつ違うことに感動しました。

最後に、保護者交流の時、会長さんの「私はこの施設を自慢したいです。職員さんたちと私たち保護者が子どもたちのために、気持ち良い生活ができるようにと考えて造ったものです。」とのお言葉が心に残りました。

保護者会施設見学（若草療育センター）

～子鹿医療療育センター～



先制されたものの、慌てずに取り返して5対1で勝利。先頭打者として大活躍の玉垣大志くん（高3）は「畢竟に出て盛り上げるのが僕の仕事」と力強く話してくれました。二回戦では佐賀県チームと対戦。自慢の堅い守備で3対0で勝利。次世代を担う大田叶多くん・高橋隼人くんの高2コンビがしつかりと内野陣をまとめました。決勝は岡山県チームと対戦、試合は0対0のまま延長戦に突入。タイブレークの末、3対1で勝利、三連覇を達成しました。岡悠平くん（高3）は「目の前のプレーに集中していました。最後は仲間を信じていきました」と声を詰まらせる場面も。今回初出場となつた横田優希くん（高3）は、「守備で貢献できて最高。いい思い出になりました」と笑顔。最後の大会となつた三年生4人にとって最高の結末となりました。Tボールで得た経験を次の進路でも活かしてもらいたいと思います。

若草園ヤングスターズは、第6回西日本肢体不自由児Tボール交歓大会で優勝、連続優勝記録を「3」に伸ばしました。高校三年生4人にとって、この大会が最後の出場。「三連覇で終えたい」とずっと話していました。ただけに、「ほつとした」のが本音のようでした。

第6回テイボール交歓大会 三連覇で締めくくり

若草園

ワクワク音あそび

10月3日（月）に「スマイリングホスピタルジャパン」に所属される音楽療法士の狩谷美穂さん、清水茜さんが来園してくださいました。

「特定非営利活動法人スマイリングホスピタルジャパン」とは、闘病中の子どもたちが、わくわくするような楽しい時間を繰り返し持つことで、闘病意欲や生きる喜びを持ち続け、回復に向けて活力が得られるよう、QOLの向上に寄与することを目的として、活動されています。美術、音楽、マジック等のプロの芸術家が小児病棟、病室、施設、自宅を訪問し、クラフトワークショップ、マジック、音楽界などを催しています。個別訪問、参加型活動、定期訪問、本物のアート等、さまざまな形での活動を定期的に行っています。

今回は、「ワクワク音あそび」ということで、参加する人が主役として楽しめる参加型の集団セッションを行つてくださいました。

名前を呼びながら挨拶の歌で始まり、歌に合わせて楽器に触れてみるという内容でした。今回は幼児対象で、最初は何が始まるのかみんな楽しみと同時に緊張もありいつもと違う雰囲気にキヨトンとしている園児ばかりでした。普段触れているような楽器をはじめ、見たことのない楽器がたくさんありみんなの目が輝きました。しかし、いざ目の前に楽器がくると子どもたちは、「触れてみたいけど、どうしよう…」という表情でした。セラピストと職員の保しで楽器に触れることができました。また、知っている曲も多く自然とリズムをとつたり、最初は泣いていた子どもたちもいましたが、次第に表情が柔らかくなつてきました。最後には会場一体となり楽しい時間を過ごすことができました。

これからも、継続してさまざまな活動を計画していくことでのことで、みんなで「次は何か?」と楽しみに待っています。

若草園・若草療育園の行事への参加、個別支援や入園児者への関わり、学習指導や縫い物などに多くのボランティアの方々に継続して来て下さり、日々の生活に潤いと刺激をいただき本当にありがとうございます。これからも宜しくお願い致します。

ボランティア紹介

行事予定

1月

- 10日 3学期始業式
- 13日 誕生会
- 22日 面会日・鏡開き会（若草園）
- 27日 学校懇談日
- 29日 面会日
節分会（療育園）



2月

- 5日 面会日 節分会（若草園）
- 6日 輪の会
- 10日 誕生会
- 17日 学校懇談日
- 19日 面会日・研修会（療育園）
- 26日 ひなまつり会
(療育園)



3月

- 5日 面会日 ひなまつり会（若草園）
- 6日 輪の会
- 10日 誕生日・学校懇談日
- 12日 面会日
作品展・お楽しみ会（療育園）
- 14日 卒業式
- 16日 保育修了式
- 21日 終業式



おことわり

平成17年4月より、個人情報保護法の制定に伴い本誌掲載の写真は、全て、ご本人及び、ご家族の許可を得て掲載しております。

編集後記

初めて編集後記を書いています。中々普段感謝をお伝えする場がないので：みなさんいつも『わかくさ』をご覧になっていただき、本当にありがとうございます！ 今後ともよろしくお願いします!! 今年も早いものであと数日となりました。今年はなんといってもカーブのリーグ優勝！これに尽きたると思います。テレビ中継がない日も携帯ラジオを聴きながら過ごした日々：選手と一緒に戦った気分です。来年度もまた熱い戦いを繰り広げてもらいたいものです。最後になりますが：2017年もよろしくお願い申上げます！

行事だより



9月11日 そうめん流し（療育園）



9月25日 お月見会（若草園）



9月28日 幼児遠足（保育）



10月8日 芋ほり（若草園）